

すが、これからは全面的に市が乗り出し、大型店の影響を受ける商店については低金利の貸し付けや長期返済などの援助をしてもいいんじゃないでしょうか。あの大型店の例を見る限り、大館には大型店の進出はかなり難しいと思います。二十一世紀の大館は、仕事があつて若者が県外に出ていかななくてもずっと働けるような町、他市へ行かなくても買物ができる町になればと思います。

菅・大館は自然と人が非常によく調和しており、実際に仕事をしていて、この大館は物を作るには格好の場所だと確信しています。また、若い人が非常に働く場所を求めているということを痛感しています。私は提言というよりも、大館の現状をみてまず働く職場というものを考えてみたいと思います。いま本物嗜好がブームになっておりますが、大館には木材があり、鉱石があります。これらを生かした企業づくり、雇用の場の確保について取り組んでいきたいと考えています。

清水・続きまして飯塚家司さんをお願いします。

飯塚・私は漬け物が好きなものですが、ガツコの町づくりについてお話しします。私は、大館で自然に入手できて他地域に「なるほど東北のイナカから出てきたものだ」というような商品作りが、必要ではないかと考えています。特に女性を巻き込んだ形の全市民のアイデア、家庭に古くから伝わ

っているようなもの、漬け物にしてみると、これぞ大館の漬け物と呼ばれるようなものが作れないかということですね。例えばきりたんぼの菜としてきりたんぼ漬けが



飯塚さん

あつたとか、忠犬ハチ公も犬なのに漬け物が好きだったとか、鉱脈を捜すときには金脈漬けを食べたとか……いわゆる新しい説を作ってもいいと思います。要するに市全体が地域興しのために具体的に熱気をはらむような状況がほしいのです。それに作ったものを販売する物産公社のような中心的機関が必要だと思えます。

清水・どうもありがとうございます。まず初めに三宅先生にアドバイスをお願いします。

三宅・地域に雇用の場を確保するためには、地域の人たちが自分たちの職場は自分たちで作っていくという発想と、それでできない分野については企業誘致ということになります。何かあると役所から補助金をもらいたいとか、役所に機関を作ってくれだとか、こういうことを言っていたんでは大館はよくありません。よく企業誘致の秘訣は何かと聞かれるわけですね。企業誘致の場合、第一にその地域の人たちの「ぜひ来てくれ」という情熱が必要なのです。それから交通条件の善しあしは別にどうということはないのです。いま一つは、その会社の企業進出

の決定権を持つ人の人脈をたどるんです。例えばその人を直接知らなくても人のツテをたどって会社のトップに決断させることですね。働く場の問題ですけど、これからの企業はそんなに人を使わず、ほとんど自動化してくるだろうと考えられますので、一つや二つを企業誘致したからといって働く場が十分にあるだろうとお考えにならないと期待はずれになります。

清水・次に渡部先生にお話をしたいと思っています。

渡部・企業誘致の話が出たわけですが、秋田市はテクノポリス指定を受けていますけど、関東、太平洋側の大都市周辺の開発が活発になり、企業の地方立地にブレイキがかかりつつあります。もう一つ大館は必ずしも企業側からは高い点数をもらっていません。いま東京で社会福祉施設を造ると建物は五億円くらいですが敷地に百億円もかかるということですね。そこで地方分散です。幸い当市は高速体系に組み込まれていますから、東京の福祉施設を引き受けるという考えをなさってもいいと思います。これは絶対に倒産させませんから、企業よりは、はるかに安定した職場です。福祉大学を出た人がどんどん入っていく職場です。もう一つ広大な敷地を必要とする研究施設を誘致すべきだと思います。それに情報処理センターを造り、ありとあらゆる情報の加工とインプットを引き受け、そこで生まれたものを光ファイバーで送るといふ近代型企業の立地も十分考えられます。ある人から「大館があり

物で勝負をすれば、秋田犬をどんどん増やし、渋谷のハチ公の隣に店を出して子犬を売ったらどうか」ということをしゃべってくれといわれたのでつけ加えます。企業が不利な条件を克服して来るか来ないかはトップ次第ですね。そのトップをくどくどにはトップ対トップ、サミットセールスでなければいけません。そのために必要なのは人脈ネットワークなのです。大館市は、綿密に郷里出身や周辺の秀れた人材のリストアップをし、人脈をていねいにみがき上げることから始めなければいけません。おらは雪が深くて「なんとおらは雪が深くて」といわれますが、ここは北緯四〇度、世界の北緯四〇度を見てみなさい。ニューヨーク、ワシントン、北京、ソウル、ピョンヤン、ローマ……みんな四〇度なのに秋田県はダメだというのはおかしい。雪と寒さ、交通体系が決定的な条件の悪さだという論理は当たらないと思えます。

三宅・人脈の話ですが、大館市出身の人ばかりだということになると非常に範囲は狭くなります。市民一人一人がいろんな人を知り合っているわけですから、そういう人脈をフルに使うと企業誘致はやさしくできると思います。

山本・地場産業興しということですが、地元には何ががあるのかということはいま一度考えてみたほうがよいのではないのでしょうか。私は、地場産業ということでは焼き物で、最初は歩道のカラーブックを造って見たらどうでしょう

うか。また杉の間伐材を校倉式の建物にし、別荘地などに利用するたいへんおもしろいものがあります。漬け物の話も出ましたが、全国ではいろんな漬け物が商品化されていますが、大館にはないですね。七、八十歳のおばあさんが独得のおいしい漬け物を作る技術を持っていますので、この方々にお手伝いをいただいで、正統の味を後世に伝えることも必要ではないかと考えています。まずできることから一つ一つやってみようという心掛けが必要だと考えます。

清水・市長さんからどうぞ

市長・公民館の文化祭や郷土品まつり、生活改善グループの方々の生活工夫展などは毎年いろんな生産物を出して技術の向上を図っています。ところがそれが組織化されて生産に結びついていくというところまでいかないのです。ここが一番弱いところであるし、これから手をつけなくてはならない大事なことだと思っています。

人づくりと福祉の心をどうするか

清水・次に第三番目のテーマといたしまして「人づくりと福祉の心をどうするか」について宮原文弥さんからご提言をお願いします。

宮原・今日ここにお集まりの皆様



宮原さん

さんは、まちづくりを前向きに考えておられる方が多いわけですが、